

講義名		研究演習Ⅱ（商）			
講義コード	55402	授業形態		開講期・曜日・時限	通年 金曜日 5時限
担当教員	濱本 隆弘			ナンバリング・コード	
学部・学科				演習分野	
商学部 経営学科				経営組織論	
概要説明					
私達の現代社会にとって、組織は欠くことのできない重要な存在といえる。事実、私達は毎日の生活の中で、国家・政府・地方自治体、企業、学校、家庭といったような組織に所属し、さらに必要に応じて、病院、宗教団体、労働組合、消費者団体、自衛隊、地域コミュニティ、といった組織を創造し、私達の生活に役立っている。つまり、人間が存在するところには、必ず組織が形成され、社会の存在がある。 組織論では、その名称の通り、組織をその研究対象とするものであるが、経営学において、特にその対象は「企業」に限定され、その構造、機能、行動、変化する環境への適応などを探求し、経済や社会の変化に最もよく適応した、そして私達にとって最良の組織（企業）の創造がその目的となっている。 さらに、組織は人間によって形成されているという視点に立ち、組織における人間の問題も経営組織の研究領域となっている。ゼミでは職場での人間関係やコミュニケーション、リーダーシップの問題をとりあげている。さらには、スタバとドトールの比較研究といった、職場管理に特徴のある企業の比較・研究も行っている。従ってゼミでは、働く者にとっての最良の職場環境を見出すということを研究目標としているのである。また、最近話題になっているSDGsに基づく人に優しい組織やダイバーシティといった事柄もこのゼミの研究テーマである。 ① 研究演習Ⅰ（2年次後期） 研究を進めるために必要な基礎知識や組織理論を集中的に学習する。また、プレゼンテーションや、ディスカッションのトレーニングを行うつもりである。さらにビジネス・ケース（事例研究）を使って、問題解決志向で企業経営を学ぶケース・メソッドによる経営学学習も並行して行っていくつもりである。特にここでは、グループでのセッションが重要視されることになる。 ② 研究演習Ⅱ ここでは、経営組織論について更に深く学びつつ、上記のケース・メソッドによる学習で、戦略的に経営学学習を進めていきたい。3年次の終わりに向けて、組織戦略の策定ができるようになることを目指す。併せて、卒論作成に向けての構想を練る。 ③ 卒業研究（4年次） 卒論作成に向けての準備を始めるにあたり、まずテーマを絞り込むために各ゼミ生毎に発表を行い、意見交換、討論の場を設ける。これをステップに各自テーマ設定を行い幾度かの発表、レポートを経て卒業論文の完成へと至る。 ゼミでは、経営学や組織論の研究はもちろん、ゼミ生同士の発表を通じて、広く経営学全般について学ぶチャンスがある。ケース・メソッドによる経営学学習も行われる予定で、全員参加型のゼミ学習が目標である。					
主な卒業論文のタイトル					
卒論テーマについては、論文作成者の意思を最大限尊重した上で決定される。経営組織をベースに広く企業経営の領域から選択する。 （1） 組織デザイン 事業部制、プロジェクト組織、ネットワーク組織、マトリックス組織（Matrix Organization）など、環境変化に適応するために組織をデザインする組織形態の問題 （2） 組織戦略 企業文化、C I（Corporate Identity）、人的資源（human resources）、M & A（買収と合併）、多角化、情報管理など組織に関わる戦略展開の問題。 （3） 組織の動態化 インバケーション、リストラクチャリング（事業の再構築）などダイナミックな、環境適応型組織の形成の問題。 （4） 組織の人間化 QCサークル、人材開発、ニュー・オフィス、時短、フレックスタイムなど人に優しい組織の創造の問題。 （5） 日本の経営 集団主義、年功序列、終身雇用制、企業別組合、職制制度、企業系列、企業集団などの日本独特の経営システムの問題。 （6） I T（インフオーメーション・テクノロジー）の進展 職務内容、労働条件、人事制度などにI Tが与える変化の問題 （7） 業界及び企業研究 特定の業界や企業について組織の問題を取り上げ、調査・研究する。					
教員よりの要望					
ゼミは対面式で行われる。新型コロナの蔓延状況により変更になる場合は必ず流科ポータル等で告知を行うので、定期的に流科ポータルの「講義連絡」をチェックすること。 ゼミでは、大学4年間の締め括りとして、4年次に卒論の制作を求めている。4年間の学習・研究の成果として、また、大学を卒業する者としてのけじめとして、卒論の制作を積極的に求めている。それに向けて研究を行い、卒論制作の準備を行うのが、研究演習Ⅱであると考えられている。 また、ゼミでは、組織論の研究とともに、卒業後の進路について真剣に考える姿勢を常に持ち、その実現のための努力をしてもらいたい。そのための支援もゼミの目的である。就職活動のサポートも行っているなので、必要に応じて相談に応じる。 さらに、ゼミへのアイデンティティーを重要視しているので、ゼミ活動に積極的に参加できない学生は遠慮されたい。よって、無断欠席の禁止、研究発表の義務を約束してもらいたい。					
選考方法					
研究演習Ⅰを履修し単位を取得していること					

評価方法	
この講義は対面型講義で行われるが、新型コロナの蔓延状況により講義形式変更の可能性がある。	
対面型講義の場合は、出席回数、課題発表とレポートの提出、ゼミへの貢献度（ゼミ活動のサポート）以上の総合評価でゼミの成績とする。	
コロナ拡大に伴い講義形式の変更があった場合でも成績評価方法は変更しない	
教員英字氏名	研究室
HAMAMOTO Takahiro	研究棟Ⅰ 1階 111号 濱本研究室
最終学歴	
関西学院大学大学院商学研究科博士課程後期課程	
学位	
商学修士（関西学院大学）	
主な研究活動・社会活動・研究業績	
現在の研究テーマ 1．日本・ドイツ・アメリカの企業文化の比較研究 2．EU域内における企業の環境経営 3．ドイツにおけるI T企業の特徴 4．組織行動を学ぶためのケース及びティーチング・ノートの作成 5．組織戦略を学ぶためのケース及びティーチング・ノートの作成 6．ポピュリズムと企業経営	
趣味・特技	
京都生まれの大阪育ち、広島での生活も加わって、大学は西宮、就職も神戸の流科大となり、今は神戸在住、根っからの西日本人です。 趣味はクラシック音楽、旅行、ネットオークション。スポーツは、スキー（流科シルバースタースキー部の顧問でしたが、上手くはありません）、水泳、トレッキングなどで老化と戦っています。好奇心旺盛で、いろいろなと首を突っ込むのですが、熱しやすく、冷めやすく、今後も趣味は増えていくことでしょう。ここ数年は大きな病気を患い、もっぱらインドア派になりました。	
所属	
商学部 経営学科 経営戦略コース	
所属学会	
日本経営学会、組織学会、経営学史学会、日本労務学会、労務理論学会	
専門分野	
経営組織 企業文化 ドイツ及びEUの企業経営	
担当科目	
経営組織論A・B 企業文化論 ストラテジック・マネジメント 研究演習Ⅰ・Ⅱ 卒業論文 経営学科へのいざない	
備考	
新型コロナウイルスの蔓延状況に応じて、対面型講義からオンデマンド型講義へ変更になった場合、不明な点は担当教員に必ず問い合わせること。状況変化に合わせた対応に留意すること。	
以下のオフィスアワーを利用して教員とコンタクトをとるように。	
オフィスアワー Ⅰ 研究棟Ⅰ 1階 111号研究室 月・水・木 12：10～12：50	
問い合わせについては以下の公開された電子メールでも対応する。 濱本隆弘 メールアドレス：Takahiro_Hamamoto@red.umsd.ac.jp	
実務経験の有無及び活用	
実務経験なし	